



東海ブロックのHIV感染症の医療体制の整備に関する研究

研究分担者 今橋 真弓

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター

臨床研究センター感染・免疫研究部 部長

研究要旨

本研究は、改正エイズ予防指針において「人権の尊重」が最重要課題として位置付けられたことを踏まえ、東海ブロックにおけるHIV診療体制を、HIVと共に生きる人（PWH）の人権をより尊重した体制へと強化することを目的として実施した。令和5～7年度にかけて、愛知県HIV感染症医療推進会議をはじめとする各種会議や、医療・心理・福祉職を対象とした研修を継続的に開催し、医療機関幹部を含む多職種・多機関間の連携強化と知識共有を図った。その結果、2025年には愛知県内全拠点病院においてHIV感染症以外の一般診療が可能となった。また、HIV症状指標（HIV-SI）を導入した多言語対応の問診票を整備し、PWHの症状や生活背景を包括的に把握する体制を構築した。さらに女性PWHの情報収集や研修医受け入れを通じ、人材育成と診療基盤の強化を進めた。これらの取り組みにより、東海ブロック全体で持続可能かつ人権に配慮したHIV診療体制の構築が進展した。

A. 研究目的

HIV感染症の患者がすでにHIVと共に生きる人（People Living With HIV、以下PWH）と呼ばれるようになって久しい。しかしまだHIVを理由とした診療拒否や施設入所拒否はHIV日常診療ではよく経験されることである。2025年11月に出された改正エイズ予防指針では「偏見・差別なく適切かつ必要な医療・福祉サービスを受けることを確保する。」とあるようにこれまで第六に位置付けられていた「人権の尊重」が第一に位置付けられた。本研究では東海ブロックにおけるHIV診療体制がよりPWHの人権を尊重した体制になるべく行ったことを報告する。

B. 研究方法

【会議】

1) 愛知県HIV感染症医療推進会議

年に1度愛知県から委託されて行った。会議の構成員は愛知県下のエイズ治療拠点病院、医師会、病院協会、歯科医師会といった関係団体、東海北陸厚生局をはじめとした関係行政機関である。拠点病院の参加者は院長・副院長をはじめとした幹部及

びHIV診療を実際に担当する現場の長が参加していた。場所は名古屋医療センターにてWEB併用で行った。

2) 東海ブロックHIVカウンセラー拡大会議

年に1度行った。企画は当院心理士が行い、各回2名の講演者を招聘した。参加者は東海ブロックに限らずブロック外の心理士、院内の多職種に渡った。

講演者は名古屋医療センターに来院し、WEB併用で行った。

3) HIV東海ブロックMSW連絡会議

年に1度行った。会議の構成は東海ブロック内のMSWが参加した。WEB開催のみで行った。

4) 愛知県エイズ治療拠点病院会議

年に1回、6月に行った。2024年までWebで行っていたが、2025年に対面で行った。参加対象者は愛知県内の拠点病院の医師、薬剤師、看護師、行政関係者であった。

5) 静岡県エイズ治療拠点病院医療連携会議

2023年・2024年と開催した。参加対象者は静岡県エイズ治療拠点病院 中核拠点またはそれに準じる施設の医師・薬剤師・看護師であった。

【研修】

1) 愛知県 HIV カンファレンス

年に1度、3月に愛知県から委託を受けて行った。対象はエイズ治療拠点病院・エイズ治療協力医療機関等の医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士等の医療従事者及び保健所のエイズ業務に従事する行政担当者等でWebのみで行った。研修内容は外部講師による特別講演、名古屋医療センタースタッフ4人～5人がHIVについての各職種からの講演で構成されている。この研修は曝露後予防薬購入に必須となっていて、購入希望者はすべての研修を視聴後、予防薬購入申し込みができる仕組みになっている。2025年度より learning box による Learning Management System を採用し、曝露後予防薬購入希望者は視聴後、クイズに正解後購入申し込みができる仕組みにし、また動画視聴の不正対策も行った。

2) 多職種研修会

2023年は動画視聴で行い、2025年は対面で行った。

対象は東海ブロック内の医師・看護師・薬剤師・心理士・MSW・行政職。グループワークで仮想症例検討を行った。

3) 名古屋医療センター内での研修医レクチャー

HIVの基礎知識に加えて、薬害エイズ訴訟についてレクチャーを行った。

【体制整備】

1) HIV-SI (HIV 症状指標) (PMID: 11750213) による問診票の導入

2023年10月よりHIV-SIを問診票に導入した。2002年に開発されたHIV症状指標 (HIV symptom index、以下HIV-SI) はHIV関連症状の評価・治療のモニタリング・生活の質を分析するためのものである。HIV-SI導入にあたっては作成者である Dr.Amy C Justice に直接コンタクトをとって使用許諾を得た。問診票には看護師が記入する保険証をはじめとしたPWHが使用する制度の有効期限のチェック欄・バイタルサイン・体重記入欄・薬剤師が使用する残薬数・最終内服時間・MSWが利用する転居・転職の予定の有無欄・自由記載欄を加えてA4サイズ1枚にレイアウトした。問診票は日本語のほか、英語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・インドネシア語に翻訳し、受診するPWHの使用言語に応じて使い分けた。

2) 女性 PWH (Women Living With HIV: WLWH) の情報収集

当院内のWLWHの情報をINDICE (Internet Data and Information Center for Medical Research: インターネット医学研究データセンター) を用いて情報収集した。同様の情報収集を東京大学医科学研究所、駒込病院、東京医大、九州医療センターに呼び掛けた。

3) 研修生の受け入れ

2023年より長崎大学病院感染症医療人育成センターより研修医師の受け入れを開始し、毎年1名ずつ1か月～3か月の研修を受け入れた。また東海ブロック内の拠点病院の医師を2名受け入れた。NHO 仙台医療センターから1名、3か月間研修医師の受け入れを行った。2名は継続して非常勤医師としての当院専門外来を担当することになった。

C. 研究結果

1. 愛知県 HIV 感染症医療推進会議

2023年度は感染制御チームから院内外の医療従事者に対してHIV感染症に関する正確な情報を提供することにより、医療提供の推進を目指すこととし、2024年は拠点病院間の連携を強化していくこととした。2025年は自施設及び地域の医療・福祉施設でHIV感染体液ばく露事象が発生した際に、適切な対応や助言が可能になるように、関連する施設と知見を共有するとともに、自施設のみならず地域の医療・福祉施設等からの要請に応じることができるようになることを目標とした。2025年には愛知県内拠点病院全14施設でHIV感染症以外の一般診療 (外来・入院) が可能になった。

2. 多職種研修会

2025年6月に行った多職種研修会では25人が参加した。6グループに分けて、事例検討を行った。

3. HIV-SIを入れた問診票

スコア平均・有症状割合は、使用薬剤に依存せず「疲労感」、「寝つきが悪い、目が覚める」及び「発疹、皮膚の乾燥やかゆみ」で高く、「消化器症状」、「食思」及び「体重・脂肪・筋肉量の減少」で低かった。

D. 考察

令和5年～7年にかけてHIV診療体制の構築のために会議開催・研修開催・外来整備を行った。

HIV診療体制は現場の医療従事者のみで背負っている状況ではその医療従事者の孤立を招き、結果としてその医療従事者の退職・転勤に伴い診療体制

が簡単に崩れてしまう。それを防ぐためにはやはり病院幹部の理解が不可欠である。愛知県より委託されて行った愛知県HIV感染症医療推進会議は院長をはじめとした医療機関幹部が集まり、各医療機関のHIV診療の現状を共有することで組織でのHIV診療体制の構築が進んだ。

研修をはじめとした学びの場の提供はブロック拠点病院の役目の1つである。当院での研修は対面およびWebツールを使用し行ってきた。対面・Webで行う場合それぞれの長所・短所がある。今後は各職種での研修を増やしつつ、リピーターの研修参加者にはより新しい情報を、初参加者には新しいつながりを提供できるようにしていく必要がある。

整備体制については引き続き新しい問診表を使用しながら採血データと突合してエビデンスの創出に努めていきたい。

E. 結論

令和5年～7年にかけて会議開催・研修開催・外来整備を行った。ブロック拠点病院の使命の一つである教育にも力を入れつつ東海ブロック全体のHIV診療体制の強化を各職種行っていくことが今後必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Yokomaku Y, Noda T, Imahashi M, Nishioka Y, Myojin T, et al. Antiretroviral therapies and status of people living with HIV in Japan : An update from hospital survey and national database. PLoS One 20 : e0317655. 2025.
- 2) Iwatani Y, Matsuoka K, Ode H, Kubota M, Nakata Y, et al. The unique structure of the highly conserved PPLP region in HIV-1 Vif is critical for the formation of APOBEC3 recognition interfaces. mBio 16 : e0333224. 2025.
- 3) Hill AO, Kaneko N, Amos N, Bourne A, Imahashi M, et al. High suicidality rates among LGB+ youth in Japan : Demographic and psychosocial correlates. J Affect Disord 387 : 119468. 2025.
- 4) Adachi E, Minami R, Shirano M, Nakamura H,

Fukushima K, et al. Evaluation of cabotegravir plus rilpivirine in routine clinical settings in Japan : A multicentre study of efficacy, safety and biomarker dynamics. HIV Med 26 : 1673-1683. 2025.

- 5) Ode H, Matsuda M, Shigemi U, Mori M, Yamamura Y, et al. Population-based nanopore sequencing of the HIV-1 pangenome to identify drug resistance mutations. Sci Rep 14 : 12099. 2024.
- 6) Uno S, Gatanaga H, Hayashida T, Imahashi M, Minami R, et al. Virological outcomes of various first-line ART regimens in patients harbouring HIV-1 E157Q integrase polymorphism : a multicentre retrospective study. J Antimicrob Chemother 78 : 2859-2868. 2023.
- 7) Otani M, Shiino T, Hachiya A, Gatanaga H, Watanabe D, et al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis : a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J Int AIDS Soc 26 : e26086. 2023.
- 8) Nakata Y, Ode H, Kubota M, Kasahara T, Matsuoka K, et al. Cellular APOBEC3A deaminase drives mutations in the SARS-CoV-2 genome. Nucleic Acids Res 51 : 783-795. 2023.
- 9) Mizuki K, Ishimaru T, Imahashi M, Ikushima Y, Takahashi H, et al. Workplace factors associated with willingness to undergo human immunodeficiency virus testing during workplace health checkups. Environ Health Prev Med 28 : 52. 2023.
- 10) Masuda M, Ikushima Y, Ishimaru T, Imahashi M, Takahashi H, Yokomaku Y. [Current Issues of Laws Concerning HIV/AIDS Control in the Workplace]. Sangyo Eiseigaku Zasshi 65 : 366-369. 2023.

2. 学会発表

- 1) 今橋真弓、「治療失敗から学ぶ長期作用型製剤の適正使用」、シンポジウム「治療の手引き」臨床・C、第39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月5日～7日

- 2) 今橋真弓、「EACS LIVE! Case-based discussion」シンポジウム 7 臨床・C、第39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月5日～7日
- 3) 今橋真弓、「検査をもっとラクに、もっと身近に：iTesting の取り組みから見えたもの」日本エイズ学会認定講習会（医師）臨床・C HIV 予防・臨床における検査update～HIV、STI、BBV、HPV 関連癌の診断再考～、第39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月5日～7日
- 4) 小崎華、松木克仁、羽柴知恵子、今橋真弓、平野隆司、横幕能行、「HIV Symptom Index を用いた問診票導入と薬剤による自覚症状の差の検討」第39回日本エイズ学会学術集会・総会 2025年12月5日～7日
- 5) 今橋真弓「女性のPLHIVの健康を考える」第38回日本エイズ学会学術集会・総会 シンポジウム2 2024年11月28日（東京）
- 6) 今橋真弓「HIV 流行終結に向けた医療者側の取り組み」第38回日本エイズ学会学術集会・総会 共催シンポジウム1 2024年11月28日（東京）
- 7) 今橋真弓「医療現場における多文化共生とは？～文化のカオスで仕事をするということ～」名古屋市立大学SDGセンターシンポジウム 2024年12月23日（名古屋）
- 8) 今橋真弓「「めざせ!「三方良し」のHIV 検査体制」令和5年度第1回中国・四国ブロックエイズ治療拠点病院等連絡協議会 2023年7月21日（広島）
- 9) 今橋真弓「HIV 診療を通してみる在日外国人の医療」シンポジウム7 第93回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第71回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会 2023年11月10日（富山）
- 10) 今橋真弓「iTesting を用いたHIV 検査から見えてきた「壁」【社会】シンポジウム5、第37回日本エイズ学会学術集会・総会 2023年12月4日（京都）
- 11) 今橋真弓「HIV 診療医が「セクシャルヘルス」を考えてみた。～HIV 知識のアップデート～」第15回教育関係者・保健医療担当者向けシンポジウム 2024年1月25日（名古屋）

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし